

日 時  
授業場

児 童 5 年 生  
授業者

1. 題材名 いろいろな音色を感じ取ろう～祝典序曲

2. 題材の目標

- (1) ・音色、リズム、旋律や音の重なりなどと曲想との関わりについて理解する。  
・各声部の楽器の音色や楽器の音の重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能や、打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) ・楽器の音の組み合わせ方や重ね方を工夫した演奏の仕方や、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。  
・楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを見だし、曲全体を味わって聴く。
- (3) 友達と協働して音を合わせて表現したり、様々な楽器の響きに気を付けてオーケストラの音楽を聴いたりする学習の楽しさを味わって主体的に取り組む。

A 表現 (2) 器楽ア、イ (ア) (イ), ウ (ア) (イ) (ウ) (3) 音楽づくりア(ア)(イ), イ(ア)(イ), ウ(ア)(イ)  
B 鑑賞 ア, イ  
〔共通事項〕  
ア 音色、リズム、旋律、音の重なり  
イ 反復、呼びかけとこたえ、変化

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりについて理解し、ト音記号やヘ音記号の楽譜を見て演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>イ 楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりについて理解し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>ウ 曲想やその変化とオーケストラの楽器の音色や響き、旋律との関わりについて理解している。</p> <p>エ 打楽器の音やそれらの組合せが生み出すよさを理解し、即興的に音色やリズムを選んだり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>オ リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさと関わらせ、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。</p>	<p>ア 楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>イ オーケストラの様々な楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>ウ いろいろな楽器の材質や音の響き、それらの組合せを考えながら、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>エ 打楽器の音色やリズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>ア 楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもち、各パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>イ 楽器の音色やオーケストラの響きの変化、旋律の交代に気を付けて演奏を聴きながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>ウ 打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方に興味・関心をもち、反復や呼びかけとこたえ、変化を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

4. 題材のデザイン (全9時間)

時	教材	○学習活動 ・学習内容	手立て	評価の観点		
				知	思	態
1	リボンのおどり (ラバンバ)	<p>○各パートの旋律の特徴をつかみ、演奏する。</p> <p>・楽曲を聴いて、曲全体の感じをつかむ。</p> <p>・リコーダー、木琴、鉄琴パートを階名唱し、演奏する。</p> <p>・打楽器パートを手拍子などで打って、リズムを覚える。</p> <p>・ヘ音記号やヘ音譜表について知る。</p>	<p>① 自分たちの演奏に生かすことができるよう、体を動かして曲の雰囲気を感じ取ったり、各パートの旋律やリズムなど、役割を理解してから課題設定をする。</p> <p>各パートの役割や曲の雰囲気に合った演奏をしよう</p> <p>② 「どんなことをポイントに演奏</p>	ア		

		・低音のパートを階名唱して演奏する。	したらいいかな」⇒音の重ね方など			
2 3		○様々な楽器が重なり合う響きの変化の面白さを生かして、演奏の工夫をする。 ・グループで演奏する楽器(パート)を決める。 ・グループの中で重ね方の違いによる響きの変化に気付いて、いろいろな組み合わせを試す。 ・曲全体のまとまりを考えて、パートの重ね方や反復する回数を決めるなど、演奏の仕方の工夫をする。	②「各パートの音が響かせるための工夫とはなんだろう」 ⇒低い音から重ねていくなど		ア	ア
4		○グループで工夫した「リボンのおどり」を発表し合う。 ・グループで演奏の発表をする。 ・互いに聴き合い、それぞれのグループのよいところを伝え合う。	②「合奏をするときに意識した方がいいことは何か」 ⇒自分のパートの役割、音量のバランスなど	イ		
5	祝典序曲	○オーケストラの楽器の音色や響きを感じ取る。 ・オーケストラで使用される楽器(木管楽器、金管楽器、弦楽器、打楽器)の音色や特徴をCDや動画を通して知る。	① <u>オーケストラの演奏されている楽器について詳しく知ろう</u> ② 「このオーケストラの楽器の特徴でわかることはあるかな」 ⇒楽器の大きさが変わると音の高さも変わる、木管楽器と金管楽器を比べると、響き方が違うなど	ウ		イ
6 (本時)		～本時の展開参照～			イ	
7		○いろいろな楽器の音色の組合せを楽しむ。 ・いろいろな楽器を鳴らして、音の特徴を知る。 ・音の特徴を考えながら、グループでアンサンブルに使う楽器を選ぶ。 ・教科書にあるリズムを重ねて演奏して、楽器の組み合わせを確認する。	① さまざまな打楽器を鳴らして音の特徴をつかんでから課題設定する。 <u>打楽器の響きを生かしてリズムアンサンブルをしよう</u> ② アンサンブルにぴったりの楽器を選ぶ時のポイントは？ ⇒音色、音の高さが異なる楽器を組み合わせるなど	エ	ウ	
8		○リズムアンサンブルをつくる。 ・音楽の仕組み(反復、呼びかけとこたえ、変化)を生かしてグループで考えたリズムアンサンブルを演奏する。	① 反復や呼びかけとこたえなどの効果により、楽しいリズムアンサンブルになること確認して課題設定をする。 <u>オリジナルアンサンブルをつくろう</u> ② 「アンサンブルをつくる時、どのような構成を考えてつくとよいのだろう」 ⇒祝典序曲みたいに楽器をどんどん重ねていくなど		エ	ウ
9		○リズムアンサンブルを完成させて、発表し合う。 ・リズムアンサンブルの練習をする。 ・話し合いの中で出た意見などを生かしたり、音楽のまとまりを考えてリズムアンサンブルを完成させる。 ・全てのグループが発表して聴き合う。 ・感想や気付いたことを交流する。	① 既習事項から、リズムアンサンブルの工夫について確認することを通して、課題設定をする。 <u>オリジナルリズムアンサンブルを完成させよう</u> ② 「どのような工夫が心に残りましたか」 ⇒高く響き渡るトライアングルの音と低く響く太鼓の呼びかけとこたえが心に残ったなど		オ	


5. 本時の目標 (6/9)

オーケストラの楽器の音色や旋律の働き等の音楽的要素と、聴きとったことや感じ取ったことを関連付けたり、根拠をもって、祝典序曲の音楽的にすごいところを伝え合ったりすることを通して、曲全体を味わって聴いている。

6. 本時の展開

※「祝典序曲」：ショスタコーヴィチ作曲

- ・ ゆっくりとした序奏に始まり、そののち急速な部分に変わり、二つの旋律が自由に交代して全曲を構成している。最後の部分では、金管楽器によるファンファーレがオーケストラに加わって曲を大きく盛り上げる。曲調は全般を通して、軽快で明るいものとなっている。(
- ・ 本題材では、小学生の音楽5鑑賞用CD1(教育芸術社)の祝典序曲の音源を使用する。全曲通して5分55秒の長さとなっている。

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) 手立て	◆留意点 ※評価
<p><b>1. 課題を設定する。</b></p> <p>■ 前回、どのような音を聴いたかな。 <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・オーケストラで演奏された楽器の音だよ</span>                  今回は、オーケストラで演奏された曲を聴いてみるよ。*祝典序曲1回目</p> <p>● 曲を聴いてみてどう思ったかな</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 華やかな曲だと思った</li> <li>・ 明るい曲だと思ったよ</li> <li>・ 今まで聴いてきた曲と違って、とっても盛り上がっているような曲だなと思った</li> <li>・ オーケストラで演奏されている曲ってすごいなと思った</li> </ul> </div> <p>● オーケストラの何がすごいと思ったのかな</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器がいろいろと出てきたところとか・・・</li> <li>・ 重なっていたところとか・・・</li> <li>・ たくさんすごいところがあった・・・</li> </ul> </div> <p>■ 聴く中で、「この部分がすごい」と思ったところを見つけて、みんなに伝えてみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                 祝典序曲のすごいところをみんなに伝えよう             </div>	<p>◆ 楽曲を鑑賞することを通して、オーケストラで演奏された楽曲が今までに聴いた曲と比べて、様々な楽器の音色や重なりを聴いたり、迫力を感じることができる等「オーケストラのすごさ」を感じたり、子供たちはオーケストラの「何が」すごいとなるのかを考えたりすることができるようにする。I</p> <p>◆ 音楽室内には、各楽器がメインとして出てくる場面の一部を表した「旋律の楽譜」を掲示している。子供たちが今この部分を聴いているのかが見えるようにする。</p>
<p><b>2. 再度曲を聴くことを通して、祝典序曲のすごいところを見つけ、友達に伝える。</b></p> <p>■ 曲を聴いてみて、すごいと思ったところは手をあげてね。*祝典序曲2回目</p> <p>■ どこに手をあげたのか、動画を見ながら確認しよう*動画確認&amp;祝典序曲3回目</p> <p>● どうしてこの部分(手を挙げたところ)がすごいと思ったのかな。II</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【ファンファーレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ だって、金管楽器が出てきたから。</li> <li>・ それだけじゃなくて、どんどん楽器も増えてきたからだよ。</li> </ul> <p>【提示部(第1主題)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木管楽器が出てきて、きれいだなと思ったから。</li> <li>・ 実は同じ旋律を弦楽器でも演奏していることがわかったよ。弦楽器だから優雅な感じに聴こえたよ。</li> </ul> <p>【提示部(経過部分~第2主題)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ また金管楽器が出てきたんだけど、最初と違って弾んでる感じ。</li> <li>・ 旋律の楽譜も見ると、スタッカートとアクセントがついているよ。だから弾んで聴こえたんだ。</li> <li>・ いろんな楽器が交代しながら出てくるのもおもしろいな。</li> </ul> <p>【中間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太鼓の音も聴こえてきて、楽しい感じがするよ。</li> <li>・ さっきと同じ旋律がもう一回出てきた。でも楽器は違うなあ。</li> </ul> <p>【ファンファーレ~終結部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初と同じようなファンファーレがあっけがいい。</li> <li>・ 最後の方だから、たくさん楽器が重なってるよ。だから盛り上がっているのかも</li> </ul> </div>	<p>◆ 祝典序曲のすごいと思ったところがどこで、誰が手をあげたのかを把握するために iPad のビデオを使用する。その後、動画の音源を通して楽曲のすごいところを見つけていく。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◆ 子供から出されたすごいところを板書に整理する。</p> <p>◆ 自分の考えや友達のかえに触れることを通して、音楽的な視野を広げていくようにする。</p>
<p><b>3. 楽曲全体のおもしろさに気付く。</b></p> <p>● 1回目に曲を聴いた時とくらべて、祝典序曲のすごいところをたくさん見つけられたかな</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさん見つけられたよ</li> <li>・ もう一度曲を通して聴いてみたいな</li> </ul> </div> <p>■ では、みんなが見つけたすごいところを感じながら、もう一度聴いてみよう*祝典序曲4回目</p> <p>■ 祝典序曲のすごいところがたくさんわかったね。すごいと思ったところを言葉でもまとめてみよう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ旋律が繰り返し出てきているのに、楽器が違うだけで、より面白く聴こえたな</li> <li>・ オーケストラで演奏されているから壮大に聴こえたよ</li> </ul> </div>	<p>※(思・判・表)</p> <p>オーケストラの様々な楽器の音色、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>

■ 本時で目指す子供の姿

本時における「問題解決力」を高めている子供の姿

本題材で取り上げる「祝典序曲」(ショスタコーヴィチ作曲)は、子供たちがオーケストラの響きを最初に学ぶ曲である。この曲は、金管楽器のファンファーレに始まり、2つの旋律が楽器を変えながら演奏され、木管楽器や弦楽器が表れて華々しく閉じられる、オーケストラの楽器の音色や旋律の反復と変化、音の重なりなどを感じ取りやすい。

本時では、オーケストラのすごいところを話し合う活動を通して、楽器の音色や旋律などの働きが生み出すおもしろさと聴きとったこと・感じ取ったこととの関わりに気づき、曲全体を味わって聴く姿を目指す。

■ 本時のポイント

本時における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

I：問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス

本題材では、子供たちは初めてオーケストラで演奏される楽曲を聴くことになる。1回目の祝典序曲の鑑賞を通して、オーケストラで演奏された楽曲が今までに聴いた曲と比べて、様々な楽器の音色や重なりを聴いたり、迫力を感じることができる等「オーケストラのすごさ」を感じることができるようにする。また、子供たちはオーケストラの「何が」すごいとなるのかを考えたり、見つけたいという思いにつながるようなプロセスを踏んで、本時の課題を設定する。

II：本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫

祝典序曲を聴き、「祝典序曲のすごいところ」に手を挙げる活動を取り入れる。「どうしてこの部分(手を挙げたところ)がすごいと思ったのかな」という発問を通して、個人で見つけた「すごい」を相手に伝えたり、友達の「すごい」を共有することで、楽器の音色や旋律等の音楽的要素と曲想の関わりを理解しながら、曲全体を味わって聴くことができるようにしていく。

♪ 祝典序曲 (1回目)



曲を聴いてみてどう思ったかな

華やかな感じだと思ったし明るくも感じたよ

とっても盛り上がる曲だと思った!

オーケストラで演奏されている曲ってすごい!



オーケストラの「何」がすごいと思ったのかな

楽器がいろいろと出てくる場所・・・

重なりがあったところだと思うな・・・

とにかくたくさんすごいところがあった



聴く中で「この部分がすごい」と思ったところを見つけてみんなに伝えてみよう(～I)

祝典序曲のすごいところをみんなに伝えよう

(ここがすごい!)

♪ 祝典序曲 (2回目)



曲を聴いてみて、すごいと思ったところに手をあげてね



♪ 祝典序曲 (動画確認 & 3回目)



どうしてこの部分(手を挙げたところ)がすごいと思ったのかな～II

【ファンファーレ】

だって金管楽器が出てきたから  
どんどん楽器も増えたよ



【提示部(経過～第2主題)】

また金管楽器が出てきたけど、最初違って  
弾んでる感じた

【中間部】

太鼓の音が聴こえてきたから楽しい感じに  
なった

【提示部(第1主題)】

木管楽器が出てきてきれいだなと思ったよ  
同じ旋律だけど木管楽器じゃなくて弦楽器  
でも演奏してるよ

【ファンファーレ～終結部】

最後の方だからたくさんの楽器が重なってる。だから盛り上がったんだ

## ■ 音楽科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

### 音楽科における Ls/Fs 育成のポイントは「問題解決力」

#### 〈音楽科で目指す子供の姿〉

令和3年1月中央教育審議会から示された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』では、時代を切り開く子供たちに求められる資質・能力として「文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力など」が挙げられるとともに、豊かな情操については「どのような時代であっても変わらず重要である」と改めて示された。このことをうけ、学校教育において情操教育の中心的な役割を担う音楽科としては、子供たち一人ひとりが感性を豊かに働かせ音楽のよさや美しさを仲間とともに自分の頭で考えながら表現し、生み出す姿を目指す姿として捉え直し、教科の研究主題として設定するとともに、本校の研究である Ls/Fs 育成のポイントとして今年度も「問題解決力」に視点を当てることとした。

問題解決能力について溝上は「具体的に、目標や問題・問いを立てる力、問題解決に関する思考力・判断力・表現力等（帰納的・演繹的推論。批判的思考、意思決定や判断など）、情報処理能力を指す」としていることから、あらゆる学習活動において目に見えない音や音楽を通して意思決定や判断を伴う音楽科としてはその部分に問題解決力を高める活動が十分に考えられる。また、鈴木は問題解決力を育む学習の一つであるプロジェクト学習において題材設定の一番大切なことは「自分ごと」であるとしている。このことから「問題解決力」を育むためには生徒が主体的に学習活動に向き合えるかどうか大きなカギとなることがわかる。そこで音楽科では、学習活動において主体的に音や音楽で意思決定や判断をするために「自分ごと」になる課題設定及び発問を吟味していくことを中核とした授業研究を進めていく。

#### 音楽科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① 問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス
- ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫

##### ① 問いから動詞にこだわった課題設定につなげるプロセス I

昨年の研究を通して現実・価値・貢献の視点を伴う課題設定、及び動詞表現にこだわる課題設定には、学習活動が主体的且つ明確な目的をもつ活動につながることに對して一定の効果があったと考えている。

- 鈴木は題材を選ぶ視点として「現実（学習者にとって“自分ごと”で身近に感じるものであること）・価値（取り組む“必然性”を感じられるものであること）・貢献（その取組が自分（たち）以外”の人にも役立つものであること）」の3つの視点をもつことによって効果を得られるとしている。
- 内藤は著者の中で目標の動詞表現にこだわるのが「学習者のゴール像を具体的に描くことができる」としている。音楽科ではこれを課題設定の指針としている。

今年度は加えて、課題設定のためには、問いをもつ（生み出す）ことが重要であることの知見から、これまであまりになりがちであったといから課題設定へのプロセスを明確にもつことを手立てとして設定することで一層子供たちが主体的に学習に向かい、問題解決力を高めるための学習活動の深化へとつなげていきたい。

##### ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫 II

学習活動の主体は子供たちではあるが、子供たちだけの活動に終止してしまうと「本質的な気づき」に気付かない、あるいは十分に味わうことができないことが考えられる。伊藤もコルトハーヘンの冰山モデルを用いて、「“見えている言動”は一部で、通常”見えていない部分”が実はとても奥深い」としていることから、学び合いの中で「本質的な気づきにせまるための発問・問い返しの工夫」を手立てとすることで、学び合いが深まることを期待した。

#### 〈参考・引用文献など〉

- 鈴木敏恵「問題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」教育出版 2012  
溝上慎一・成田秀夫 アクティブラーニングとしての PBL と探求的な学習 2016 東信堂  
内藤佐佐子 伊藤和史シミュレーション教育の効果を高めるファシリテーター Skills&Tips 医学書院 2017